

西仲間集落

この小さな集落は、奄美大島と奄美の島々全域の村々の多くを特徴づける伝統、信仰、習慣、そして自然と調和した暮らし方を体現しています。

神の道と昔ながらの暮らし

「カミチ」(神の道) は、山の神々が海へ向かうのに通る道だと言われています。伝統的な信仰にもとづいて、集落を通るこの細い道は入念に手入れされ大切にされています。奄美諸島には今も強いアニミズム信仰が残っており、集落の人々は自然界のあらゆるものに宿る神々とともに暮らそうとしています。

自然界への敬意

住用山の周囲の森に入る時、集落のほとんどの人は神に加護を祈ります。また、森の木を切ったり、住用川で淡水エビやリュウキュウアユを獲ったりする時に感謝を捧げるのも集落の人々の習わしです。ミズガニ漁の伝統は少なくとも 200 年前から続いており、長年の間にミズガニの数は減少しているものの、今でも集落の生活の重要な一部です。毎年旧暦の 8 月 15 日に行われる豊年祭では、集落の人々は自然の恵みへの感謝を示し、魔よけの祈禱を捧げます。

西仲間集落は、奄美群島のデリケートな生態系を保護するため 2017 年に設立された奄美群島国立公園の一部です。